

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年7月30日(16:00~16:30)

1. 初期支援(はじめのかかわり)

メンバー 恩房 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口 松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	5人	9人	1人	人	15人

前回の改善計画  
事前の情報を把握し職員間で確認し合い意見交換を少数単位で行うユニット会議を活用して情報共有することで不安をなくし、本人や家族・介護者が必要としている支援をおこなう。

前回の改善計画に対する取組み結果  
ユニット会議を活用し、不安感や疑問点を解消できる様話し合いを行い情報共有がしっかり出来ている事で寄り添える支援へとつなげられる様な支援を行う事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	5	10			15
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	3	11	1		15
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	12	1		15
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	4	10	1		15

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
ご家族の様子にも目を配り、関係づくりを築くための意識を持つことで信頼関係につなげる事が出来ている。  
利用開始前には事前情報(ADLの把握)をしっかり職員間で共有できている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
ご家族とお話する機会はあるものの、じっくりお話するタイミングが中々ないため、ご家族不安を受けとめきれてないのではと不安感がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)  
ご家族、介護者や本人が必要としている支援についてユニット会議を活用し職員間で情報共有することで、全体で支えていく意識を持ちコミュニケーションを良くとり計画作成担当者を中心に情報共有していける体制づくりを継続していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年8月30日(16:30~17:00)

2. 「～したい」の実現(自己実現の尊重)

メンバー 恩房 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口 松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	10人	2人	人	15人

前回の改善計画  
 事前情報を職員間で共有した上でケアにあたり、言葉や表現から思いを読み取れるように多方面からアプローチし「～したい」を手のひらから零れ落とさないように、一人ひとりの目標を目指した支援を行う。

前回の改善計画に対する取組み結果  
 言葉だけでなく、表情をよく見て本人の希望を読み取ることができたり、ご利用者の目標に寄り添ったケアができるように努力している。LINEWORKS やユニット会議でそれを情報共有することで全体でご利用者に合った支援ができている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?	3	11	1		15
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	3	10	2		15
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	4	10	1		15
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	5	9	1		15

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
 本人の「～したい」という気持ちを汲み取り本人に寄り添えるよう、趣味や興味がある事など良く把握し、目標の確認を職員間で行なっている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
 ご自分から中々言葉を発することができない方の目標を引き出すことが難しく職員全体で「どういう関わりがいいのか」「どのようなアプローチがいいのか」等が話し合えていない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)  
 ご利用者との関わりを大切に、日々の関わりの中で気づきを LINEWORKS に上げユニット会議で情報共有し、個々の目標を目指した関わりに取り組んでいく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年8月30日(16:30~17:00)

3. 日常生活の支援

メンバー 恩房 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口 松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4人	9人	2人	人	15人

前回の改善計画	利用者の生活環境や生活歴を把握したり、思いや気持ちを読み取り言語化するために、積極的にコミュニケーションをとり引き出していく。関わりの中で得た情報は些細なことでも共有し利用者の声にならない声をチームで言語化をする
前回の改善計画に対する取組み結果	ご利用者とコミュニケーションを積極的に図り、体調の変化や気づいた事はLINEWORKSを活用しチームでしっかり共有することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		13	2		15
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	4	11			15
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	3	12			15
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	6	9			15
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	3	12			15

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 一人一人が意識をし、気持ちや体調変化に気づける様に支援を行い、本人にあった介護が出来る様になってきている。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること コミュニケーションをとり、情報収集は実施できているが、以前の暮らし方について把握できていない部分や情報共有がしっかり出来ていない事がある。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) ご利用者に寄り添い、積極的にコミュニケーションをする事で、小さな変化を見逃さないように月例会議で情報共有し、ご利用者の声にならない声の言語化に努める。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年9月30日(16:30~17:00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 恩房 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口 松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	8人	2人	0人	15人

前回の改善計画  
一人ひとりがアンテナを高く情報収集を行い送迎や訪問時に得られた情報は LINEWORKS を活用して発信、職員間で情報共有し利用者の生活スタイルや地域資源を理解して地域での暮らしを支える取り組みにつなげる。

前回の改善計画に対する取組み結果  
利用者さんの変化や送迎・訪問時に得た情報は LINEWORKS を活用し職員間でしっかり共有できている。文章だけでなく写真も添付することで現状についても共有でき地域イベントに出向き「ご利用者さんの地域の暮らし」について情報収集し職員一人一人が意識を持って共有・発信が行えている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	2	12	1		15
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2	13			15
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	3	10	2		15
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	10	3	1	15

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
日々の業務で気になった出来事や知り得た情報は LINEWORKS を活用し発信共有が出来ており、ご利用者の様子やコミュニケーションから现阶段の生活状況の把握を行えている事で、情報交換もでき、見えない部分の過ごし方も知ることが出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
以前よりは地域のイベントに参加できるようになってきているが、まだまだ地域との関わりが少ないため職員全員が理解し把握できない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)  
LINEWORKS を活用し、地域資源の周知・発信を行ない職員も地域イベントなどにご利用者と積極的に参加していく事で地域での暮らしを支える取り組みが行えるように情報共有をしっかりと行っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年9月30日(16:30~17:00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 恩房 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口 松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4人	10人	1人	人	15人

前回の改善計画	利用者の状態変化や地域資源について、細かな情報も LINEWORKS や申し送りで職員間情報共有し、利用者や地域資源の理解を深め、状態・ニーズに合わせた柔軟な支援を行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	LINEWORKS を活用し事前情報のチェック、細やかな状態変化も職員でしっかり共有でき、タイムロスなく把握できることで一人一人のニーズに合った柔軟な支援を行う事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	5	9	1		15
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	7	8			15
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	4	11			15
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	4	10	1		15

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ご家族と会話、本人との会話で得た小さな情報でも、LINEWORKS を活用し、職員間で情報共有しユニット会議を行い振り合えりが出来ることによって変化に応じた支援が出来ている。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 利用者さんの変化に気づき、一人ひとりに合わせた支援をしたいという気持ちは職員全体で思っているがすぐに対応することが難しい場面があり、細やかな支援をおこなえていない時がある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 利用者さんの日々の状態変化に合わせた、柔軟な支援が行えるよう利用者さんの変化を敏感に察知、LINEWORKS やユニット会議で情報共有し地域資源についても理解を深めニーズにあった支援を行う。職員間での声掛けを意識した行動も心がけていく。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月29日(16:30~17:00)

6. 連携・協働

メンバー 大竹 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口  
松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	8人	2人	0人	15人

前回の改善計画	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)自治体・地域包括支援センターとの会議に参加した職員は他の職員へも周知した方が良い情報を LINEWORKS や小規模会議で発信する。参加していない職員は積極的に LINEWORKS や会議録等で記載されている内容の情報を自ら取りに行く意識を持って業務にあたっていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	その他のサービス機関や包括支援センターとの会議に参加した職員は、他の職員に情報を発信し参加していない職員も情報収集に意識を持って業務にあたっている。会議に対する意識にバラつきはあるが各職員一人一人が情報を把握していこうと心がけ、職員間で声掛けをし合い業務にあたれた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	4	9	2	0	15
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	3	10	2	0	15
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	5	9	1	0	15
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	10	5	0	0	15

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること ふらっとホーム・小学校のイベント、季節の行事など地域の方々が事業所を訪れて下さる事が増え活気にあふれており、職員が地域へも出向き、積極的にイベントに参加出来ている。 ご本人の状態やご様子など会議で共有できている。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 利用者の状況・状態は日々変化する為、LINEWORKS の情報を見るだけでは、ケアをする際に違う所もあり職員間の情報交換が不十分と感じる事があった。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 職員一人一人が地域に根差した事業所を目指していく意識をしっかりと持ち地域活動やイベント・サービス機関との会議に参加した職員は伝えたい内容を整理した上で伝達、参加しなかった職員は内容把握に努め、各サービス機関との情報交換も
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年10月29日(16:30~17:00)

7. 運営

メンバー 大竹 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口  
松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	4人	6人	0人	15人

前回の改善計画  
事業所運営について、現在の部門間会議・事業所内会議及び拠点会議、委員会等の目的を再度明確化してどの会議で何を話し合っ意見を書いていくのか、体制を整え、全職員で共通理解し、業務改善・情報共有・意見交換をしていける体制構築をおこなう。

前回の改善計画に対する取組み結果  
情報共有、意見交換を出し合う体制は整っているが、会議・委員会の目的や共通理解が不足していると感じることがあった為、職員全体が理解できるように改善に取り組む必要がある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	5	8	2	0	15
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	8	7	0	0	15
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	7	9	0	0	15
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	6	7	2	0	15

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること  
ご利用者のご家族様や地域の方々などのご意見等はご意見シートを活用したり、書面に起こして内容を職員間で共有でき、防止策や対策の徹底・業務改善に繋げ良好な運営を行えている。ユニット会議を活用し職員が意見を出し合い対応に反映できている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること  
事業所のあり方を理解した上で意見を述べている職員が少ない。  
運営・地域での取り組みを理解する為の情報・知識不足を感じる。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)  
職員全体で事業所のあり方や各委員会・事業所内会議の目的を良く考えた上で、意見を出しやすい環境づくりの構築。  
情報共有を密に行ない共通理解できるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年11月20日(16:30~17:00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 大竹 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口  
松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	7人	7人	0人	0人	15人

前回の改善計画	研修や地域連絡会に参加した職員は資料や会議録を発信し、他の職員への報告・伝達を行ない、会議の場を用意して伝達研修・意見交換し内容を共有する。
前回の改善計画に対する取組み結果	研修に参加した職員が学んだ内容を、LINE WOKS を活用し「研修」「会議」に発信する事で、全体で共有できている。意見交換を行ない、より良いケアに繋げて行こうと言う意識を高めることが出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	8	6	1	0	15
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	10	5	0	0	15
③	地域連絡会に参加していますか	5	10	0	0	15
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	7	8	0	0	15

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること オンライン研修も増え、定期的に輪番制で短時間の研修を受けられている事で、職員全体のスキルアップに繋がっている。 また日々のヒヤリハットを挙げ、共有する事で、事故防止への意識を持ち、事例と取り組みも共有できている。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること 伝達研修は行なえているが、会議に参加できなかった職員に対して、介護技術や医療対応等、手技を直接伝える研修報告は、書面・口頭での伝達だと伝わりにくいと感じた。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 質を向上する為の取組みを行ない、実務時術のスキルアップが引き続き出来るよう、文面解釈が伝わりにくい研修報告(介助・医療対応・感染対策等)は職員全体又は個々に実技伝達時間を設け、内容共有できるようにする。
---------------	---



事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年11月20日 (16:00~16:30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 大竹 玉井 猪俣 花島 上園 樋口 野田 山口  
松本佳 野口 井上麻 サトウ 小倉 井上 五十嵐

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	8人	0人	0人	15人

前回の改善計画	地域や外部との交流が増えている中で周りの環境に配慮しながら職員間の伝達はブルーオーシャン・LINEWORKS・メモを活用し口頭での伝達や利用者への声掛けは声の大きさや内容に注意して、忙しいほど職員間で連携をとりプライバシー保護に努める。
前回の改善計画に対する取組み結果	ブルーオーシャン・LINE WORKS を活用し、職員間の伝達を考え、連携はとれていたが、情報が多くあると、内容が把握しきれず、再度伝える事があり、伝達不十分と感じる事があった。 プライバシー保護に関しては、1人1人が取り扱いに注意し、取り組んでいた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	11	4	0	0	15
②	虐待は行われていない	10	5	0	0	15
③	プライバシーが守られている	7	8	0	0	15
④	必要な方に成年後見制度を活用している	9	6	0	0	15
⑤	適正な個人情報の管理ができています	6	8	0	0	15

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること 利用者の気持ちをよく考え、プライバシー保護・個人情報については取り扱いに注意出来ていた。 身体拘束・虐待については、研修での学びを共有し、努める事が出来た。
--------	---

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること プライバシー保護の為、十分に気を付けているつもりでも、忙しくなってきたり時などは伝達するという方へ意識が強くなり、声の大きさ等、配慮が不十分と感じる時があった。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	(200字以内) 職員間の情報共有・伝達はLINE WORKS を活用し、口頭の際は大きさや内容に気をつけ、プライバシー保護に努める。個人情報の取扱いは、メモや付箋を活用し、伝えるように十分に注意する。
---------------	--

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 翠燿会	代表者	津川 恵美子	法人・事業所の特徴	ご利用者様やその家族様のご希望に適宜対応する為、顔なじみのスタッフによるサービスを柔軟に組み合わせて提供することにより、介護が中重度になっても住み慣れた地域で自分らしく、人生の最期まで過ごすことができるよう、医療、介護、予防、生活支サービスなどが一体となって地域内で提供を行い。これまで通りの生活を維持し、尊厳をもって「自分らしく暮らしたい」という思いに添えて参ります。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 グリーンヒル八千代台	管理者	大竹 暁		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	1人	1人	0人	2人	1人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	情報共有ツールを使うことで意見を出しやすい環境にし、エト会議で方向性を定め、月に1回の会議で評価や次のプランに向けての話し合いができるように取り組む。事前に意見徴集を行なうことで、会議の効率化も図る	LINEWORKS を活用し、ご利用者の変化や気づいた事を職員間で共有出来、事前に情報収集・課題をわかりやすいように纏め、ご利用者の今後の方向性を統一し、職員が同じように支援できるように取り組めた	職員の中でも個人差があるので、あまりできていないと回答した職員に対し、全体での情報共有と改善策に取り組んでいただきたい(そのような項目にはきめ細かい指導が大切)スタッフ全員で取り組まれていることを確認しました	情報ツールを活用し、職員一人一人が意見を出しやすい環境を整え、様々な利用者の対応ができるよう、事前に意見収集を行う事で会議の効率化を図り、月1回の会議で話し合いと演習を実施、経験を重ね実践に備える改善策に全体で取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	室内は、季節感のある飾り付けを意識し、ご利用者と共に壁面飾りなど空間作りを行なっていく。感染対策を講じてになるが、全館の行き来が制限なく行なえ、交流の機会が増えるように心がけていく	イベントの飾りつけや、看板作り等をご利用者と一緒に作成し、難しい物ではなく、簡単に楽しく行っていただけるよう工夫し、季節感を意識し行なう事が出来た。全館の行き来は思うように出来ず、イベント開催時等限られた時間での交流になってしまっていた	ふらっとホームグリーンヒルでは、まさに多世代が集い、楽しく過ごすことができる場だと感じています。相席することで会話も生まれ普段交流がない人同士が自然とお話できる環境は素晴らしいと思う。事業所に訪問させて頂くと入りやすい雰囲気を感じる。	地域の方との交流の機会が増える様、引き続き感染対策を講じながら、地域の方々が入りやすい空間作りを心がける。ご利用者の作品提示の継続、季節感のある環境整備を行なって行く。
C. 事業所と地域のかかわり	ふらっとホームや地域サクルの活動活発により、地域住民の方々との接する機会が増えているため、地域情報の収集や地域資源の共有、イベントのご協力など、地域に積極的に出て学びの機会も持つようにする。また、施設にも余暇活動の場などに訪問して下さるボランティアの受け入れが出来るように体制作りも行なっていく	地域の行事等は事前に情報を頂き 感染対策を行い、できるだけ参加させていただき、地域の方々と交流できる時間を設ける事が出来た。地域の方が宛に向いて下さる事が多く、ご利用者との関わりを多く持つことが出来た。音楽ボランティア(2グループ)が来て下さるようになり、ご利用者に楽しい時間を過ごして頂ける様引き続き体制作りを継続していきたい	地域に根差した事業所を目指す意識をメンバー全員で共有するため、先輩スタッフが日常的に関わりあまりできないメンバーも行事に参加の意味を理解してもらえるといい。地域(八千代台圏域に限らず)のイベント等にご利用者様と一緒に参加される様子を何度も見かけました。社協の福祉出前講座に参加していただき、車椅子の使い方を教えて頂いた。	地域に根差した事業所を目指す意識を職員全体で共有していくために、地域の行事には今後も積極的に参加していき、ご利用者の皆様の生活を地域で見守る為の交流を継続していくことで、行事参加の意味を職員全体で理解し共有していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域行事には積極的に参加し、世代間交流や福祉教育、認知症カフェなど各関係機関や民生委員の方々と連携・協働し「地域で支える支援」に向け取り組んでいく	地域行事に参加させて頂く事で顔見知りになるきっかけが出来、交流の場ができる様に積極的に参加したい	利用者本人とその地域の方々との関わりを理解することは簡単ではないが情報をキャッチできたメンバーから他の職員に漏れなく伝え共有することが大切。ふるさと親子祭りの花火を観覧されたご利用者のことがとても印象に残っている。	地域活動等に参加した職員が得た情報をLINEWORKS や報告文書、会議等を使い他の職員に伝え、共有することで、ご利用者の暮らしを支えるインフォーマルサポートとフォーマルサービスの結合化を図る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	ご利用者が住み慣れた地域で暮らし続けるためにも地域 協力者の存在が不可欠。協力者の方々とミクロな地域情報などの収集と共有などを運営推進会議で行なっていく。又、施設行事や地域行事を行なうにあたり、施設の限られた資源では補えない部分などを明確にし、目的を共有した上で地域との協働体制を構築していく	地域との協働体制を構築していける様、事業所内だけではできない様な問題や情報、意見交換が出来、検討し改善に繋げていけるよう努めていきたい	運営推進会議で事業所の取り組みの説明がわかりやすいです、会議の意見を取り入れた改善につなげられている。他の事業所は、会議では利用者さんが参加されている所があります。	自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携を取り、運営推進会議で上がった地域での課題、意見を共有し、課題について一緒に考えて行く。運営推進会議では、事業所の事例を活動報告と共に伝えし、地域の皆様のご協力や地域情報を頂きながら、協働体制の構築をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	防災訓練等を通して、地域住民の方々に防災計画を共有して頂けるように、また共に地域で防災・減災について協力し合えるように運営推進会議等でも話す機会を作るようにしていきたい。防災倉庫の確認も定期的の実施していく	日頃から防災についての意識を、職員一人一人が持ち、防災訓練の実施で防災設備の確認が出来た。地域の方々との訓練、参加を通し、皆様からのご意見を頂き、物資や知識の共有もできた。	ベランダが広いところもあるが、2階から外通路へ出る所は狭いので、夜間・停電・浸水時での避難の時は足元に気を付けないといけないと感じた。災害はいつおこるかかわからないので、点検が大切と思われる。	避難経路の日々点検を意識し、日頃から防災意識を持ち、BCP/防災計画を職員全体で共有する。施設だけではなく、引き続き地域防災訓練等に参加し、協力体制を整えて行く。